

創清会ニュース

創清会事務局
羽島市
江吉良町719-1

松井市長 市発展へパワーアップ

再選出馬を表明

12月に市長選 改革まだ道半ば

市議会で答弁

松井聡市長は先の羽島市議会で任期満了(12月20日)に伴う次期市長選挙に再選を指して立候補することを表明した。6月定例会の一般質問で奥田三郎市議(自民清和会)が「市6次総がスタートしたが、市長の任期はあと半年、引き続き各事業の推進を願える

ものと考えてるが、市長の所見は」と質したのに対し、松井市長は「粉砕身、市政に取り組んできたがまだまだ道半ば、選択と集中でより効率的な市政を目指し、活力を取り戻してきた羽島市をさらに飛躍させたい」と力強く答弁した。

この中で松井市長は「活力ある羽島市を維持していくためには的確な社会情勢への対応が求められており、羽島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に、当市が有する地域資源を活かしながらまちづくりに対する英知を絞り、積極的・効率的な取り組みを展開するための施策をまとめました」と、まず魅力

実には推進してきた。成果について検証しているが、各事業を計画的に進めるため第6次総合計画や総合戦略に反映させている」と説明、前市政が解決をすることのできなかつた市最大の懸案事項だった新ゴミ処理場建設問題について、「対話と協調をもって解決に全力を尽くし、2つの大きな課題をクリアしました。対応がされてなかった燃やせるゴミの処理先を三重県内に確保したこと、前市政からの下中町の候補地と誠実に折衝が続けたが打開の見込みが厳し

く、新たな候補地として平方第2土地区画整理組合から保留地提供の申し出を賜り、岐阜羽島衛生施設組合に提案し認めていただいたことで、ゴミ問題に道筋をつけることができました」と語った。

また「活力ある羽島市づくり」では、前市政で進展のなかったインター南部東地区の企業誘致事業を市長自らトップセールスを行って5社の誘致を実現。市外・県外からも集客効果のある大型商業施設の立地を果たし、企業が進出しやすくなる法人市民税の標準税率化や創業支援、地産地消

の促進など地域経済の活性化に努めたことや、遅れていた学校の耐震化を行ったことなど、松井市政の成果に言及した。先の国勢調査で羽島市は僅かながら人口が増え、数少ない人口増加市となった。「羽島市の長年の沈滞傾向が払拭されつつある」と評価、松井市長は「1期目は飛躍への準備段階、2期目ですっかりした基礎・土台を築きたい」との信念を踏まえ、市民第一主義を理念に「市民と一緒に頑張っていきたい」と次期市長選立候補の決意を語って答弁を結んだ。

また「活力ある羽島市づくり」では、前市政で進展のなかったインター南部東地区の企業誘致事業を市長自らトップセールスを行って5社の誘致を実現。市外・県外からも集客効果のある大型商業施設の立地を果たし、企業が進出しやすくなる法人市民税の標準税率化や創業支援、地産地消

の促進など地域経済の活性化に努めたことや、遅れていた学校の耐震化を行ったことなど、松井市政の成果に言及した。先の国勢調査で羽島市は僅かながら人口が増え、数少ない人口増加市となった。「羽島市の長年の沈滞傾向が払拭されつつある」と評価、松井市長は「1期目は飛躍への準備段階、2期目ですっかりした基礎・土台を築きたい」との信念を踏まえ、市民第一主義を理念に「市民と一緒に頑張っていきたい」と次期市長選立候補の決意を語って答弁を結んだ。

の促進など地域経済の活性化に努めたことや、遅れていた学校の耐震化を行ったことなど、松井市政の成果に言及した。先の国勢調査で羽島市は僅かながら人口が増え、数少ない人口増加市となった。「羽島市の長年の沈滞傾向が払拭されつつある」と評価、松井市長は「1期目は飛躍への準備段階、2期目ですっかりした基礎・土台を築きたい」との信念を踏まえ、市民第一主義を理念に「市民と一緒に頑張っていきたい」と次期市長選立候補の決意を語って答弁を結んだ。



麻生太郎副総理・財務相に要望書を手渡す松井市長(左)=7月5日



石破茂内閣府特命担当大臣(地方創生)に陳情の内容を説明する松井聡市長(左)=6月23日

松井聡市長は、この6、7月、麻生太郎副総理・財務相、石破茂地方創生相(当時)、県出身衆参議員ら8大臣・議員に要望活動を行った。要望はコミュニティセンターの施設改修に伴う補助金制度の創

松井聡市長 財務相らに要望活動

設、名鉄新羽島駅のバリアフリー化、中学校武道場新築の際の交付金補助率の引き上げなど5項目。いずれも市で緊急性の高い事業で、松井市長は今後も継続的に要望活動を続けていく。